慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 中国語の受動文をめぐって |
| Sub Title | Reflections on passive construction in Chinese |
| Author | 大野, 純子(Ono, Junko) |
| Publisher | 慶應義塾大学藝文学会 |
| Publication year | 1993 |
| Jtitle | 藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.64, (1993. 12) ,p.193(18)- 210(1) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00640001-0210 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中国語の受動文をめぐって

大　野　純　子

## 0.　はじめに

受動文は，話者の何らかの目的を担って選択された一つの構文である。その選択理由の主なものは，話者の関心が動作主にないということである。しかし，このような時にはいつも受動文が用いられるとは限らない。世界の言語の中には，受動文を作ることができない言語もある。また，作ることはできても，様々な語用論的・統語的制約があるのが普通だ。中国語では英語・日本語よりその制約が多い。それで，中国語では受動文をそれほど頻繁には用いない。

では，話者の視点が動作主にない時に，中国語ではどのような文が選択されているのだろうか。その観察をするためにまず，第一章でプロトタイプ（原型）論の基本的考え方を述べ，受動文のプロトタイプをあげた。なぜプロトタイプ論かというと，文法現象の一つ一つを切り離して個別的にみたのでは，他の構文，または外国語との比較が表面的なものになってしまうからである。

次に，中国語のプロトタイプ的な受動文を示し，第二章では，そこから少し離れた受動文，その周辺の「ある意味で受動文的な文」をみた。

（例文は中国語文法参考書，または日本の小説の中国語訳本からとり，出典は最後にまとめて記載した。）

## 1.　プロトタイプ論からみた受動文

### 1.0　プロトタイプとは何か

ある言語現象について，世界の諸言語から普遍的な特徴を抽出したものをプロトタイプ（原型）とよぶ。プロトタイプ論とは，ある言語現象にはプロトタイプ的なものとそうでないものがあり，両者の相違は連続的なものであるとの立場から，各現象について設定したそれぞれのプロトタイプを使って，相互の有機的つながりを説明しようとするものである。受動文を例にとれば，文を受動文と非受動文に分けるのではなく，典型的な受動文を設定し，その周辺にある受動文と受動文ではない様々なタイプの文の連続性を探るものである。

1.1　受動文のプロトタイプ

Shibatani (1985) によれば，受動文のプロトタイプは以下の通りである。

Characterization of the passive prototype.

a . Primary pragmatic function: Defocusing of agent.

b . Semantic properties:

(i) Semantic Valence: Predicate (agent, patient).

(ii) Subject is affected.

c . Syntactic properties:

(i) Syntactic encoding: agent → $\phi$ (not encoded).

patient → subject.

(ii) Valence of P 〔redicate〕 : Active = P／n;

Passive = P／n-1

d . Morphological property:

Active = P;

Passive = P 〔+passive〕 .　　(p.837)

柴谷は受動文の主機能が「動作主の非焦点化」にあると考えている。これは受動文を作ることができない言語を除いて，諸言語に共通して見られる特徴である。受動態は能動態に比べ結合価（Valence）の減少を伴う。具体的に述べると，受動文は動作主を必須構文要素とはしない。日本語や中国語，英語などでは，動作主を斜格名詞句として受動文の中におくことができる。形態面では，受動文の述語は能動文の述語に対して有標であり，

受動の意味を示すなんらかの形態素を含む。

従来，英語などにおいて受動文を「目的語の主語化，目的語への視点の移行による目的語の題目化」ととらえることが多かった。柴谷は，それでは世界の諸言語の受動文の生起を説明できないと，いくつかの点で反論した[1]。その中で，中国語に関係する点のみをあげると，従来の考え方では，「純粋な題目化と受動化の区別がつけられない」こと，「多くの言語に見られる，受動文と自発・可能・再帰・敬語・複数など諸構文との連続が説明できない」ことの二点である。

1.2　中国語の受動文

柴谷によるプロトタイプの設定から考えると，中国語の受動文で最もプロトタイプ的なものは以下のような‘被字句’とよばれるものである。

1　他被敌人关了四年。

（彼は敵に四年間監禁された。）

中国語は世界の言語の中で最も普遍的な対格型言語なので，受動文は能動文と対立する。‘被’は基本的に好ましくないこと，不本意なことに使われるが，近年は外国語の翻訳の影響で中立，またはプラス感情の際にも用いられることがある。‘被’は書面語で，‘叫，让，給’は口語である。‘被字句’は，動作主を文中に表すことができるが，話者の関心がなければ表さなくてもよい。‘叫，让’では動作主は必須である。

中国語にはその他に受動のマーカーがない「自然被動文」といわれるものがある。これは，

2　一本书（小李）拿走了。

（本は（小李が）持って行った。）

3　问题解决得好。

（問題はうまく解決された。）

のような文で，動作の受け手が特定のもので，なおかつ動作の方向性がはっきりしている時にしか使えない。（「本が小李を持って行く」ことはふつう考えられない。）自然被動文と云われるものは，確かに 1.1 で述べた「動作主を主格からはずす」という受動文のプロトタイプにかなっている。

しかし，これらの中には主題文，説明文も含まれているので，必ずしも全部が受動文であるとは言い難い[2]。

## 2．プロトタイプの周辺の文

‘被字句’は中国語の中でそれほど頻繁には用いられない。以下に，日本語の受動文を中国語でどう表しているか，例をあげて，中国語受動文のプロトタイプの周辺にどのようなものがあるかをみていきたい。

### 2.1　日本語の間接受動文と中国語の処理

間接受動文とは，受け手が関与しない一つの事象を補文としている。日本語では「父が死んだ→彼は父に死なれた」のように受動文が作られる。中国語の受動文には直接受動文と間接受動文の区別がない。では日本語の間接受動文で表されるような事柄を，中国語ではどのように表現しているのだろう。

日本語の間接受動文は以下の三つに分類できる。

①　受け手の身体部分についての受動文

4　その肩先がポンとたたかれる。

中国語では，以下に見るように迷惑の意味がない場合，能動文で示すのが普通である。

4′有人轻轻地拍子他一下肩膀。（大河内1982より）

迷惑の意味がある時は‘被字句’で表す。

5　彼は弾丸に指を撃ち落とされた。

5′他被子弾打掉子手指头。（豊嶋1988より）

②　所有の受動文

受け手が実際に，または精神的に所有するものやことについての受動文。

6　私は先生に子供を褒められた。

このタイプについても例文5のように言うことができれば，問題はないわけである。ところが，

7＊他被敌人炸伤了孩子。

（彼は敵に子供を爆撃された。）

は言えない。同じように，

8 ＊花子被太朗打破了眼镜。

（花子は太朗に眼鏡をこわされた。）

も言えない。（ただし，このようなタイプの文は，方言によっては言えるものがあったり，判断も人によってばらつきが見られる。）以下の9は比喩的な表現で，「古傷」を身体部分と見るか，精神的所有物と見るかの問題もあるが，‘被字句’である。

9　駐在巡査は古傷に触れられたような顔をした。

（驻村警察显现出被人触痛了伤疤似痛苦表情，～）　（1）

③は純粋な間接受動文である。「彼は六歳の時父に死なれた」を中国語で

10＊他六岁时被父亲死了。

とは言えない。では日本語の③のタイプの間接受動文も，主語の変換をして能動文で表すしか方法がないのだろうか[3]。まず，大河内（1982）による例文11～13，その他を見ていただきたい。

11　こう降られては鶏もかわいそうなものだ。

→这么下的话，鸡也可怜呢。

12　両親に死なれてから，ここの家の世話になっております。

→因为父母双亡，所以住到这儿来了。

13　へべれけになって暴れられてたまるもんですか。

→喝醉了胡闹怎么行。

14　夫に先立たれ，年金と近くの自動車部品メーカーでパートとして働いて得るわずかな金で生活し，小さな借家でひとり住まいしている伯母は，～

（姨父已去世，姨妈靠养老金和在附近汽车零件制造厂打零工所得的微薄收入度日，孤身一人住在一所租来的小房子里。）　（2）

11は「（雨が）こんなに降っては」，12は「両親が死んだので」，13は「（ある人が）へべれけになって暴れるのが」，14は「夫が死んで」のようにいずれも能動文に訳している。迷惑の意味は単に語彙的なものから来ている。

③のタイプはよく「迷惑」を表すとされているが，以下の15，16は文脈次第で，「迷惑」にも「ありがた迷惑」にもなる。

15　またこの上に課長に来られては，身の置き所がなくなってしまう。

（栋居想，如果科长也真地来了，那就更是无地自容了。）　（3）

16　駅前には車が待っていた。原釜（地名）とは天地の違いである。こうまでされては辞退できない。棟居は先方の親切をうけることにした。

（汽车已在车站前面等着他们了。这同原釜相比，真是天壤之别。既然如此，栋居也就无法推辞，只好接受他们的盛情了。）　（3）

中国語ではこの「ありがた迷惑」の気持ちを統語的に表す方法はなさそうだ。

2.2　‘讓’

日本語の間接受動文を中国語の能動文以外で表現する時に‘让’がよく用いられる。次にその例をあげる。

17　「感心している場合じゃない。彼に風巣へ逃げ帰られたら，まずい。すぐ追うんだ」

（“眼下不是佩服的时候，让他跑回风巢就糟了。还不快追！”）

（1）

18　しかし，彼に生きていられては，私たち（私と克子）はいっしょになれない。

（但是，想到让他活下去，我和克子就不能团聚；　～）　（2）

19　「わたしは千坂や良春にとってダイナマイトをかかえているような存在です。生きていられては最も好ましくない人間でしょう。」

（“对于千坂和良春来说，我好象就是他们身边的一颗定时炸弹，恐怕他们最不愿意的就是让我活着了。”）　（3）

20　うっかりしてあいつに逃げられてしまった。

（不注意让他跑了。）　（楊1989）

受動のマーカー‘让’と‘被’が大きく違うところは，前者は使役のマーカーを兼ねているが，後者は受動専用のマーカーであるということで

ある。そのため，中国語の受動文と使役文の関係は，日本語の受動文と使役文の関係と違うのではないかと推測される。以下の例文はその推測を裏づけるもので，日本語の受動文の訳に使役専用のマーカー‘使’を使っている例である。

21　乗客に車内で急死された帆足忠介は，さんざんな目にあった。

（乗客突然死在车里，这使帆足忠介倒了大霉。）　（3）

次の節で両国語の受動文と使役文の関係を見てみたい。

2.3　受動文と使役文

間接受動文と使役文はあるコトを補文にとるという点で共通するものがある。受動文の主語は結果的に意志を持たず，使役文の主語は意志を持って行為者となる。

中国語の受動のマーカー‘叫，让，給’はもとは使役のマーカーで，「XガY＝Vサセル」→「VスルコトヲV許ス，ススメル，譲ル，与エル」→「Vサレル」のような段階をふんで受動のマーカーにもなった。‘使’は書面語，‘叫，让，給’は口語というように区別されているが，両者の違いは実はそれだけではない。楊（1985，1989）によれば，‘使’は使役者が被使役者の動作，作用を引き起こした原因である場合にのみ使われる。それで，例文21の間接受動文は，中国語では‘使’を用いた使役文で表現されている。以下も同じような例である。

22　裁判所が自衛隊の実態を調べるために防衛文書の提出を命じたが，防衛庁が「国家機密」を理由に提出を拒否したために審理が打ち切られてしまった。

（裁判所为了了解自卫队的现状，作出提供防卫文件的决定，但防卫厅以“国家机密”为由拒绝提供，使审理中断。）　（4）

23　「昔の中国人妻が現われたところで家庭を破壊されるというような年齢ではあるまい。

（“这种年龄的人，是不会因中国前妻的出现而使家庭破裂的。”）　（1）

24　あと一歩というところを暴走族に邪魔されて尾行を撒かれたので，

すっかり意気消沈している。

（成功在望之时，由于暴走族捣乱而失掉追踪目标，使他十分沮丧。）

（1）

25　「最大の緊張を強いられる時間でしたが，～」

（“那是最令人紧张的时刻，～”）（‘令’も使役のマーカーの一つ。）

（3）

中国語では使役と受動を一つの文の中で同時に表すことはできない。つまり、

26　太朗は母にその本を読ませられた。

を

27＊太朗叫母亲叫看了那本书。

28＊太朗被母亲叫看了那本书。

のようには言えない。ではこの使役受動文を中国語ではどう表現するのだろうか。

29　（中略）特に相手に欠点も見つからないので，両親にまかせると答えると，バタバタと婚約がまとまって，あっという間に結婚させられてしまったというのが実情である。

（见对方外貌上并没有什么明显的欠缺，她的回答是：“叫凭父母作主吧。”这句话一出口，婚事很快就定了下来，没多久就结了婚。）

（4）

29は使役受動形「結婚させられて」に「しまった」が加えられて，「主語の意志を超えて何かが起こったことを示している」ので，使役受動の意味がますます強調されている。ところが，中国語の方は「結婚した」という表現しかされていない。

以下の二例も同じように動作主（待たせる人）の存在を無視し，受け手の意志的行動として表されている。

30　自分が十分ほど待たされたら，一時間ぐらいむすっとしているくせに」

（要是你自己等别人十分钟，那就会闹一个钟头的气。）　（2）

31　どうしても従いて来てくれという磯貝の頼みで病院に同行した哲之は，最新の設備を誇る病院の待合所で三時間近く待たされた。

（因为矶贝的再三要求，哲之跟他一起来到医院，在这所以最新设备而自豪的医院的候诊室里，等了近三个小时。）　（2）

‘让’の原義が生かされて，以下のように使役と受動の二つの意味を同時に持つこともある。

32　「まったく年寄りの縁起かつぎには泣かされる」

（“老人迷信思想，真让人没办法。”）　（3）

しかし，被害の度合いが強い場合，以下のように‘被’を使うこともある。

33　すると百合子は，声をひそめ，鶴田がもうじき会社を辞めさせられるのだと教えてくれた。

（百合子听了这话，便悄悄告诉哲之说鹤田不久就会被解雇，～）

（2）

2.4　中国語の補語

1.1で述べたように，受動文は話者が動作主より受け手に視点をおいていることを意味する。この節で受動に限らず，単文内での話者の視点の移動，もしくは描写方法の変化を取りあげ，視点の移動が言語によっては受動の表現の代用をすることがあるということを見ていきたい。

中国語学でいう「補語」とは，動詞・形容詞の後につく動詞，形容詞，副詞等を指し，つく動詞・形容詞の補充説明をする。ここでは補語の中で動詞の視点を変える働きを持つ結果補語，方向補語について述べる。これらは大抵の場合，軽声で発話され，本来の動詞としての統語機能を失って虚詞化している。以下は‘被字句’の中の補語の例である。（日本語文は受動文。）

34　山根在外出做工的地方被人殺杀，～

（山根は出稼ぎ先で殺され，～）　（1）

35　小陈又被选作主席。

（陳くんはまた議長に選ばれた。）

上の例文の下線部の補語は前の動詞の動作の結果や方向を示している。動

詞は当然の事ながら明示，もしくは暗示されている動作主の行為である。その次の補語は動作主による行為の結果，行為の帰着点または行為の方向を示しているが，それを受け手の側から見て叙述することがある。たとえば，34で補語‘死’は動作「殺す」の結果で，受け手の山根について述べたものである。35では陳くんは「選ばれて」，議長に「なった」のである。以上の観察から，述語動詞「動詞＋補語」の内部では話者の視点が変わっている場合があると言える。能動と受動の表現が話者の視点の変化によるものと考えると，中国語の補語は文法的に視点の変化を許すものとして，受動表現に通じる機能を持っていると推測される。

次にあげる例文の日本語は受動文だが，中国語は‘被字句’ではなく自然被動文で表されている。

36　我再也不想卷进这是非圈子里去。

（これ以上，煩わしいことに巻き込まれたくない。）　（4）

37　如果是车出库后不久就丢下的，那么前边的乗客们就会発現。

（出庫後間もなく残されたものであれば，前の客が気がついてもよいはずであった。）　（3）

これらはいずれも，1．2で述べた「受け手は特定のもので，動作の方向性が誤解されることがない」という自然被動文の条件を満たしている。結果または方向補語は，受け手が動詞の動作を受けてどうなるか，またはどうなったかを形容している。受動文は受け手に話者の視点がなくてはならない。特定の主語があり，動作の方向が主語に向かうものであることがはっきりしていて，動詞につく補語が「受け手がどうなったか，または動作が受け手から見てどの方向に進むか」を表すのが自然被動文である。自然被動文は，この点でただ何かについて述べる主題文と性格を異にしている。

2.5　形容詞的受動文

直接受動文は，受け手が無生で話者が動作主をまったく問題にしていない場合，形容詞述語文的性格を帯びることがある。たとえば，以下の例文は，ある部屋の様子を述べたもので，動作の結果の状態を「形容」してい

る。

38　居間の壁に南宋風の山水画や中国語の絵皿が数枚飾られ，壁際のサイドボードには中国の酒瓶や古陶が並べられてある。床には字模様の厚みのある中国緞通が敷かれている。　（3）

この訳文は以下のように表されている。

38′　内客厅的墙壁上挂着南宋风格的山水画，还装饰着几个中国画盘，靠墙的餐具橱中摆中国的酒瓶和古陶器，地坂上铺着有文字图案的厚厚的中国地毯。

中国語の方は受動文ではない。これは存現文といわれるもので，人，あるいは事物がある場所（または時間）に存在，出現，消失することを表す。動作主がいてもいなくても，話者の関心がそこになければ中国語では受動文を用いる必要がない。以下の例文39は，動作主はいるが，話者の言いたいことは「新しい花の出現」である。例文40は動作主を考えることが難しい。

39　花筒には新しい花が供えられ，墓は清々として保たれていた。

（插花筒里供着新插的花，墓地保持得清洁，～）　（3）

40　電話は発信が何回かあったが，メーターに度数が表示されただけで，相手のナンバーはわからないという。

（电话倒是打过几次，记录本上只記録了打电话的次数，但不知对方的电话号码。）　（3）

例文39は動作主が有生，受け手が無生，40は他動詞スルに相対する自動詞の欠如を補うための受動表現で，無理に動作主を「メーター」，受け手を「度数」と考えればどちらも無生ということになる。中国語で存現文になるような日本語の受動文は動作主は有生でも無生でもよいが，受け手は必ず無生でなければならない。

しかし，存現文はもちろん受動表現ではないので，以下のように日本語の能動文の訳にも使うことができる。

41　机の上に一匹のおもちゃの犬がおいてある。

（写字台上放着一只玩具狗。）　（5）

42　壁には彼女が自分でかいた絵が掛けてある。

（墙上挂着一张她自己画的画儿。）　（6）

41は下線部を「おかれてある」に変えてもそれほど意味が変わらない。42の下線部は「掛かっている」「掛けられている」に変えることができる。このようなタイプの日本語文が存現文になるのであって，同じ～テアルでもその処置をした人の存在が意識されている場合は，下の例のように存現文にならない。

43　ホテルはもう予約してあります。

（酒店已预订了。）

44　友人からの手紙には，中国留学生活における状況が書いてあった。

（友人的来信说到了他们在中国留学生活的状况。）　（7）

2.6　‘在～下’

介詞（前置詞）‘在’は，

在＋名詞（句）または動詞（句），形容詞＋下

の形で「動作が生じる，または状態が存在する前提，環境」などを示す。以下の例文は，日本語で受動文のものを‘在～下’で訳出しているものである。

45　哲之に何度もせっつかれて，陽子はべそをかいたような表情のままスプーンに水を入れて来た。

（在哲之多次催促下，阳子才哭丧着用脸子盛了水来，～）　（2）

46　食事がすむと，哲之は陽子に促され，パジャマに着換えた。

（吃过饭，哲之在阳子的催促下换上睡衣，～）　（2）

45と46は日本語文の受け手，動作主共に有生である。しかし，以下のようにどちらか，または両方が無生であってもかまわない。

47　疲労に圧倒されて，あの時，あの幼な子のために犯人は必ず捕えてやると，自分自身に誓った言葉を忘れるともなく忘れていた。

（在无休止的疲劳折磨下，尽管自己不想忘记但实际上却把当初亲自立下的为了幼儿，坚决捕获凶犯的誓言，抛到了脑后。）　（1）

48　店を閉めてもう何ヵ月もたったような喫茶店の看板が，冬に逆戻りしたみたいな冷たい風にあおられて音をたてていた。

（珈啡馆的招牌在倒退回冬天一般的冷风拍打下发出声响。）　（2）

受動文の受け手にあたるものは，45のように‘在～下’の後においてもよいし，48のように‘在’はの前におくこともできる。45～48では，この受け手と‘在～下’の後にくる文の主語はまったく一致している。（たとえば，45の例文で，「陽子は哲之にせっつかれた」，「陽子はスプーンに水を入れて来た」）しかし，以下に見るように‘在～下’以下の文の主語は，受け手とまったく同じではなくても，何らかの関係を持っている語であればよい。

49　野崎弘は，長い時間寒気に晒されて，全身が麻痺しかけていた。

（野崎弘在长时间挨冻之下，全身冻僵无法动弹，～）

（‘挨’は「受ける」の意味。悪いことに用いる。）　（4）

「全身」は言うまでもなく「野崎弘」の「全身」である。この関係は2.1で扱った日本語の間接受動文を思い出させる。しかし，‘在～下’の構文では「わたしは先生に子供をほめられた」「彼は六歳の時父に死なれた」などの文を表現することはできない。‘在～下’と次に続く文は支配関係がうすいので，以下のように動作主や受け手が不明瞭な場合でも表現できる。

50　国家という巨怪に踏みつぶされて，あがきの痕は，初めから何事もなかったかのように輾圧された。

（在国家这具庞大怪物的践踏下，从一开始起，这挣扎就无望地被辗得粉碎。）　（4）

上の文は「国家に踏みつぶされた」X，そのXの「あがきの痕」のようにXという人物を想定できるが，文中には表されていない。

このように見ていくと，一般的に日本語で，「受け手Xガ　動作主Yニ　Vラレテ（それが原因となって，または引き金となって）Xガ　V」のような文が，中国語では‘在～下’で表現されている。これらの日本語の受動文は常に複文を形成しているが，‘在～下’の中国語文は単文の時もある。

2.7　‘有人’

下の例文の日本語受動文はいずれも動作主を明確に述べていない。

51　「本人の会いに行ったという“都内の知合い”の割出しが先決である」という意見が出された。

（有人提出，“必须首先推测出死者要会见的东京市内的‘熟人’。”）

（3）

52　「私，水木です，水木アリサです。私，追われているんです」

（‘我是水木，水木阿莉莎。有人在追我，～’）　（1）

53　アリサは殺されると訴えたのだ。

（阿莉莎说有人要杀她，～）　（1）

中国語では‘有人’という語を主語にして能動文として訳している。‘有’は動詞だが‘人’と結びついて一語のようになり，全体で「ある人が，誰かが」と不定の人物を指す。‘某’（「ある」）と違うのは‘有’にはやはり動詞としての性質が残っているということだ。‘有人’は‘某人’と違って「ある人がいて，その人が」というように文の構造上，段階を持っている。‘没（有）人’という否定形もある。以下はその例である。

54　母屋はここしばらく使われていなかったらしく，～

（主房很长时间没人居住，～）　（1）

55　「おまえのアリバイが証明されない限り，出稼ぎ殺しの容疑が最も濃いのだ」

（“要是没人证明你出車在外，就洗刷不掉杀人的嫌疑。”）　（1）

‘没人’は英語の no one のように語の中に既に否定の要素を含んでいる。‘有谁’も‘有人’と同じように使われる。（否定形は‘没有谁’）

56　「あなたは昨日確かにだれかに追われていた」

（“昨天确实有谁在追赶您～”）　（1）

例文の51～56の‘有人（または谁）’はすべて動作主であった。以下の‘有人’は受け手である。

57　「しかし，だれかが雪崩に巻き込まれたかもしれない」「だれが巻き込まれるというです？」

（‘也许有人给雪崩埋了。‘你说有人遇难了？[4]’）　（4）

受動文中に動作主が表れていない場合，次のような理由によると考えら

れる。①動作主がわからない場合，②話者の興味がない場合，③文の前後，または発話場面において動作主が自明で，受動文中で繰り返す必要がない場合，④動作主がいない場合である。53～57の日本語の例文を見てみると，①，②または③の理由で動作主が述べられていないと思われる。しかし，その動作主の存在は重要で，「動作主Ｙが何かをする／した」ということが事態，受け手または話者に影響を与えることが前提となっている。

‘有人～’の文で特徴的なのは，能動文でありながら話者の視点は主語の‘有人’以外にも置けるということである。‘有人’はいわば「顔のない人物」なので久野（1978）の述べるように主語の位置にあっても視点を置きにくい[5]。能動文と‘有人～’の文，受動文の視点を簡単にまとめると次のようになる。（下線は話者が視点をおいている箇所を示す。）

58　（能動文）　太郎在追阿莉莎。
　　（太郎がアリサを追っている。）

59　（‘有人’）　有人在追阿莉莎。
　　（アリサを追っている人がいる。）

60　（受動文）　阿莉莎被太郎在追赶。
　　（アリサが太朗に追われている。）

2.8　語彙的受動表現

動詞の中に既に受動の意味を含んでいるものがある。このような動詞を使えば，受動文を用いることなく受動の意味を表すことができる。‘遭（到），挨’は悪いことに用いられる。‘受（到），得（到）’にはそのような制約はない。

61　「主人は人から怨まれるような人間ではありません。けんか一つできない人で，そんな殺されるような怨みをもたれるはずはないです。
　　（“没有人怨恨他。连架都没有吵过的他，怎么会结下遭人暗算的冤仇哩！”）　（1）

62　青田孝次郎の七月十二日のアリバイは間もなく証明された。
　　（青田孝次郎七月十二日没有在杀人现场一事，很快得到证实。）
　　（1）

日本語の「(～を) 受ける」は少しかたい表現で，結びつく語（「～（を)」の部分）も割合限られているように思う。だが，中国語ではそのようなことはなく，以下のようなくだけた表現にも用いることができる。

63　「わたし，まだ二十一よ。男の人にちやほやされたら，やっぱり嬉しいし，心が動くわ」

（“我才二十一岁呀，受到男人的奉迎，总归会高兴，会动心的。”）

（2）

64　陽子に冷やかされ，彼は照れて笑った。

（受到阳子的嘲弄，哲之不好意思地笑了。）　（2）

以上で述べた語彙的受動表現は，制約はあるものの動作の内容を選択することができた。以下は語彙的に個別的な受動表現である。

65　（行雄は）大山とはおさななじみで，中学までいっしょだったが，「ずるがしこいガキで行雄はいつもだまされてばかりいた」という。

（行雄和大山是幼时的朋友，一起念到中学。在老人的眼里，“大山是个滑头，行雄总是上他的当。”）　（1）

‘上当’は「だまされる」という意味で，間にある‘他’（「彼」）は動作主「大山」を指す。

66　417号機の不明は，膝元の百里基地においてすら限られた人間しか知らなかった。

（417号机的失踪一事，仅限于百里基地有関人见才了解真情。）

（4）

‘有関’（「関係がある」）は本来は動詞だが，形容詞として用いられている。日本語文の方も「Yが人間を限る」のように動作主Yを設定しにくく，形容詞的表現である。

## 3.　おわりに

本稿では受動文のプロトタイプしか扱わなかったが，使役文，自動詞文，他動詞文などのプロトタイプを考えることももちろん可能である。文法現象の世界では，それぞれのプロトタイプの周辺が重なっている。その

重なり方は言語によって違いがある。ここでは中国語の受動文のプロトタイプの周辺にどんな文があるかをみてきた。

それをもう一度整理してみると，次のようになる。まず，中国語の使役文は間接受動文の補文を名詞化し，主語として表すことができる。これにより，補文の内容が被使役者に影響を与えたことを表せる。中国語の受動のマーカー‘被’は歴史的には一個の独立した動詞で，受動の意味しか持たない。しかし使役のマーカーは「～させる」→「～することを許す」→「～される」のように受動の意味をも担う。中国語の動詞にはよく結果補語，方向補語といわれるものがつく。これは中国語に結果動詞が比較的少ないこと，中国語は動作の方向を詳しく述べる傾向があることによる。この補語が文法的に視点の変化を許す働きをしているので，動作主が主語である場合も，話者は受け手の側の描写ができる。形容詞の性格が強い受動文は，中国語では存現文で表される。存現文は示される状況を作った動作主にはまったく関知せず，ただその状況を形容することができる。その他に介詞‘在’をおいて主語がその影響を受けたことを表す‘在～下’の構文，不定の人を指す‘有人’の構文，語彙的受動表現なども，受動文のプロトタイプの一部分を共有して「動作主の非焦点化」を行なっている。

**注**

1) 柴谷（1989）p.89
2) 劉叔新（1987），楊凱栄（1989）などを参照。
3) 楊（1989）では日本語の間接受動文を‘被’を使って表せる例をのせている。
・彼にこうして座られると，何も見えなくなってしまった。（被他这么一坐，我什么都看不见了。）
・彼女に泣かれてしまうと，どうしたらいいか分からなくなった。（被她这么一哭，我不知道怎么办才好了。）
ただし，このような‘被字句’は例外的であるという。
4) 現代中国語では「誰」と「誰か」の語彙的区別をしない。
5) 久野（1978）p.148「談話主題の視点ハイアラーキー」

**例文出典一覧**

(1) 森村誠一　1982『花の骸』文春文庫
　中国語版　1982“花骸”馬興国　訳　江西人民出版社
(2) 宮本輝　1988『春の夢』文春文庫
　中国語版　1988“春夢”戴璨之・郭来舜訳
　中国联合出版公司
(3) 森村誠一　1985『新・人間の証明（上）（下）』角川文庫
　中国語版　1985“人性的証明新編”朱継征・楊衛紅訳　解放軍文芸出版社
(4) 森村誠一　1976『黒い墜落機』角川文庫
　中国語版　1984“黒色飛機的墜落”呂立人訳　中国青年出版社
(5) 『中国語』1987年7月号　大修館書店
(6) 『中国語』1986年7月号　大修館書店
(7) 『中国語』1986年9月号　大修館書店

**参考文献**


大河内康憲　1982「中国語の受身」『講座日本語学』第10巻　明治書院

奥津敬一郎　1933「何故受身か？――〈視点〉からのケース・スタディ――」『国語学』132　国語学会

木村秀樹　1981「被動と『結果』」『日本語と中国語の対照研究』第5号　日本語と中国語の対照研究会編

久野　暲　1978『談話の文法』大修館書店

柴谷方良　1989「言語類型論」『英語学大系』第6巻　大修館書店

Shibatani, Masayoshi　1985 'Passives and Related Constructions: A Prototype Analysis' "LANGUAGE" 61-4

角田太作　1985「言語プロトタイプ論」『言語』第14巻6号　大修館書店

豊嶋裕子　1988「"被"字句から能動文への転換について」『中国語』347　大修館書店

楊　凱栄　1985「『使役表現』について」『日本語学』第4巻　明治書院

――――　1989「文法の対照的研究――中国語と日本語」『講座日本語と日本語教育』第15巻　山口住紀編　明治書院

劉　叔新　1987「現代漢語被動句的範囲和類別問題」『句型和動詞』中国社会科学院語言研究所　現代漢語研究室編

Weiner, Judith E and Labov, William　1981 'Constraints on the Agentless Passive' "Journal of Linguistics" 19


（本稿は，1992年に慶応義塾大学に提出した修士論文の一部に加筆修正したものです。）